

令和2年度 学力向上アクションプラン

1 中期学校経営方針

(1) 学校経営中期取組目

| 学校経営中期取組目標 | 教育課程全体で 育成を目指す 資質・能力 |
|--|--|
| <p>学校教育目標実現のために、〔希望〕〔幸福〕〔他愛〕あふれる、児童・保護者・地域・教職員にとって魅力ある学校づくりを進めます。</p> <ul style="list-style-type: none"> 一人ひとりの子どもが、主体的に課題を解決する学びを大切に、授業力の向上に取り組みます。 一人ひとりの子どもに寄り添い、互いを認め合う豊かな心や、たくましく健やかな体を育むように努めます。 一人ひとりの子どもの学びと生活を支える教育環境の整備、改善を進めます。 一人ひとりの子どもが、地域行事や地域との交流活動等を通して、まちに貢献する心を育みます。 近隣の幼保小中高大学連携を進め、教育活動の充実を図ります。 | <ul style="list-style-type: none"> ○追究する力 ・問題発見力 ・目的・目標に応じた解決能力 ・見通す力 ・粘り強さ |

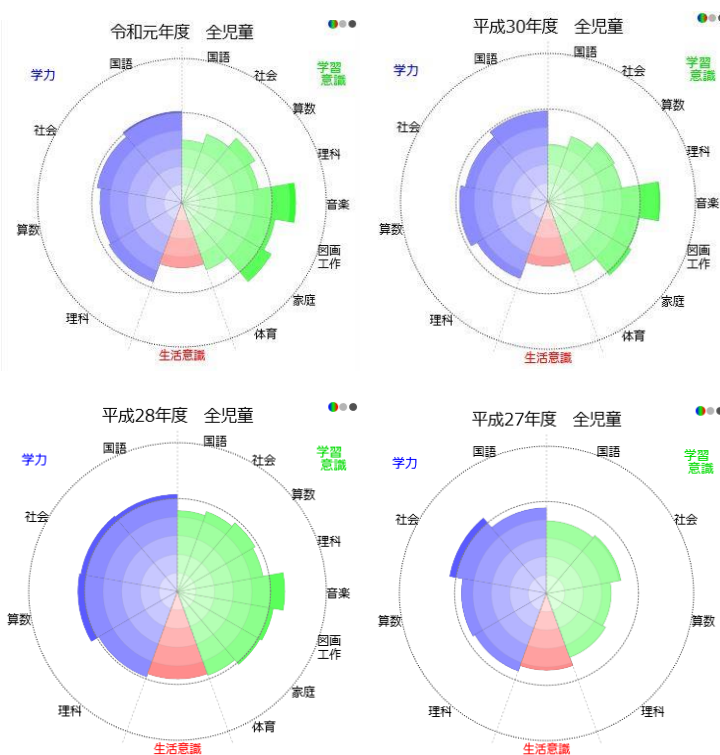
(2) 学力向上に向けた重点取組分野・取組目標・具体的取組

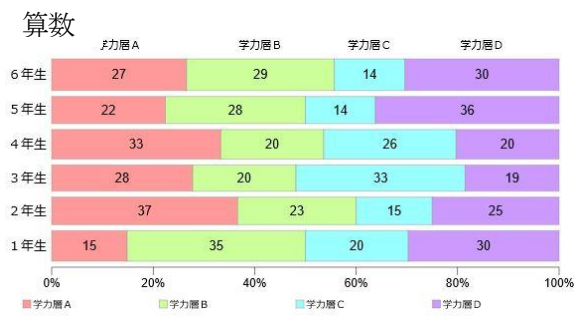
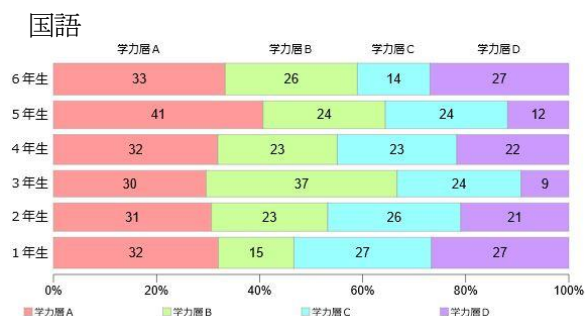
| 重点取組分野 | 取組目標 | 具体的取組 |
|--------------|-------------------------------------|---|
| 生きてはたらく 知 | 育成を目指す資質・能力を明確にし、教科横断的な授業づくりを追究します。 | <ul style="list-style-type: none"> 校内重点研究として、算数と他教科をからめた単元づくりをして、子どもがより進んで学習に取り組めるようにします。 年間カリキュラムを見直し、改善していきます。 家庭学習を実施し、学習の習慣化、基礎的・基本的な学習事項の定着を図ります。 |
| 担当 | 教育課程部 | |

2 横浜市学力学習状況調査等からの実態把握

(1) 学力・意識の概要

| |
|---|
| <p>【学力】</p> <ul style="list-style-type: none"> 各教科の学力は市の平均と比較してほぼ同程度。 H29年度より低下してきている。 <p>【学習意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> H28年度に比べると低下している。 目的を意識して学習している児童の割合が低下。そのほかはほぼ変化なし。 A層の児童は、D層の児童より「勉強が好き」と答えている割合が高い。 A層の半数以上が、自分の考えを発言している。C層D層の児童は、その割合が低くなる傾向がある。 <p>【生活意識】</p> <ul style="list-style-type: none"> 高学年においては、家庭学習の時間、携帯・スマートフォンの使用時間と学力と関係していると考えられる |
|---|





【国語】

- ・A層約3割、D層約2割とこれまでとほぼ変化はない。
- ・低学年は「書く」、高学年は「読む」「話す」が低下。

【算数】

- ・A層・D層ともに約3割程度。H28年度よりA層約7%減、D層約7%増。
- ・多くの学年で「技能」が低下

(2) 要因の分析

- ・どの子にとっても「楽しい」「面白い」「不思議」「やってみたい」など、心が動く授業づくりに課題があるのではないか。
- ・子ども自身の主体的な学びになっていない。よって学習の目的が意識しにくくなっているのではないか。
- ・基礎基本の積み重なっていないのではないか。
- ・H29年度より重点研授業研究会の回数が減少したことが関係しているのではないか。

3 令和2年度 学年・教科等としての具体的取組

子どもの学びづくり

これまでの本校の研究では、「問題発見・解決力」「言語能力」「自分づくりに関する力」の育成を目指して、話し合いの中から課題を見出し解決したり、互いの意見を交流したりすることができるように授業改善を行ってきた。合わせて、スキルタイムや家庭学習を充実させ、基礎・基本の定着を図ることも重視して取り組んできた。

今年度は、より子どもが自らひと・こと・ものとかかわりを求めたり、よりよいものを求めて試行錯誤したりして、主体的・協働的に追求しよう、したいと子ども動き出す学びのデザインに重点をおく。校内授業研究とし、教科の枠にとらわれず、子どもの生活に根差した学びを各学年で展開していく。

また、子ども一人ひとりを丁寧にみとり、学びを手厚く支えていけるように、次のような取り組みを行っていく。

| 算数少人数 | 岸谷 SR | スキルタイム | 家庭学習 |
|--|--|--|--|
| 3年生以上は、少人数グループでの学習指導体制をとる。個の実態の把握に努め、個に応じた支援を行う。 | 特に、学力低下に不安がある子は、週1回、取り出しで、個に応じた課題に取り組む時間を設け、支援を行う。 | 火～金曜日までの朝の時間（1M）にプリントやドリル等を活用して計算や漢字などのスキル学習を行う。繰り返すことで基礎的・基本的な学習事項の定着を図る。 | 各学年、音読、国語や算数のプリントなどで、毎日家庭学習を行うことで、家庭と連携し学習の習慣化を図る。 |

